

# 令和7年度事業報告

社会福祉法人千周会の理念は、  
住み慣れた町で、その人らしく  
「心豊かに、健やかに」にお過ごしいただきたい。

社会福祉法人千周会は、平成8年に法人資格の認可を受け、高齢者施設（H9. ケアハウスまどか、H13. 特養明日香）等を主に運営して参りましたが、「地域共生社会」の必要性が叫ばれる中、まどか内に、2017年（平成29年）放課後児童クラブ（わくわくキッズクラブ）や2018年（平成30年）企業主導型保育所（わくわくチャイルド）を併設し運営に携わっております。

令和6年度は、コロナ感染症がやっと下火になりホッとした矢先、国の財政難の下、私たちの介護事業所では、有資格者や配置人が細かく定められた料金体制で運営しておりますが、働き方改革、最低賃金の改定、光熱費や食材料費等の値上げ等それに伴う報酬が連動されていない現況があります。そのうえ、ホームの老朽化による改築や修繕費、外国人労働者への受け入れ費用や住居費補助などの出費が嵩み、自らの事業所の経営分析、改善を通して負債統制の徹底を図らなければ維持できないという厳しい経営に直面しております。そのような状況下で千周会は、ご利用者の安全、安心な生活を維持確保するため、防災士資格保持者を雇用し今後発生する可能性が高いと言われております南海地震への防災対策の強化、コロナ等さまざまな感染を予防するため丸亀医療センター（感染症専門医保持）とアイシークリニック双方と協力医療機関契約を結び職員研修や入所者の相談対応、急変時の診療を行って頂く体制を確保しました。

また、今マスコミ等で話題となっているハラスメント対策は、令和3年より職場内でのセクハラ、パワハラ防止に向けての相談窓口担当者等の周知義務はもちろん6年度の報酬改定では、利用者または家族と職員の関係においても、事業主に「著しい迷惑行為により就業環境が害されぬよう取り組まなければならない」という職員へのカスタマーハラスメント防止対策への課題が課せられている折り、その基本方針の策定や利用者・家族への周知義務が推奨されております。その対策防止に向け職員間で話し合いの場を設け、安心できる職場となるよう取り組み、今、利用者、家族の周知の在り方についても検討中です。

また、外国人就労につきましては、インドネシアから来ている実習生2名（令和5年11月入職）はJLPT4, 3を保持し日本語への理解度も高かったのですが、フィリピンからの特定1号（令和6年9月入職）は、日本語への理解が乏しく教えるのに苦労している現況で、勤務時間中に毎日1時間の日本語勉強の時間を組み入れ少しでも日本語への理解が深まるよう努めました。外国人実習生には、日本の文化・風習に馴染んでもらえるよう地区社協主催の「ふれあい夏祭り」や琴参閣での温泉1泊旅行、子ども達と一緒に週1回の「しかしか踊り」等への参加が、日頃の仕事のストレス発散の機会、楽しみとなっているようです。

この1年計画通り、利用者、職員の安全、安心な生活環境や地域の皆様とのつながりを大切にしながら無事に事業を終えることができましたことをご報告すると共に理事、評議員の皆様はじめ地域の方々のご協力に感謝申し上げます。

## 【各事業所の報告】

### ① ケアハウスまどか

ネット等を通じて、ご家族やご本人からの問い合わせやご相談は数多くありましたが、大半は認知症や精神疾患、身体機能の低下等により頻繁に介護の必要がある方々ばかりでケアハウスの利用対象者としては難しいケースが多い中、入所者の退所（介護が常時必要となる）が重なり残念ながら利用率の低下という状況になりました。

ご利用者様には、明るく、清潔感のある生活環境の中、ご利用者お一人おひとりにあった各自個別の生活目標を設定すると共に今の生活状況や身体状況をグラフ化したことで、職員間の情報の共有化、ご家族への近況報告にも役立っております。

施設への苦情、要望を入れて頂く「意見箱」への活用が出来ていない中、入居者同士が雑談の中で話している内容に耳を傾けると、私たち職員が見逃しがちな些細な出来事に不快感やストレスを感じている方がいることに気づきました。その声を大切にしたいと考え、再度、意見箱活用について入居者に協力依頼したところ、様々な声が届き始め施設での課題改善に結びつきました。

(例 食事が冷めていた→温冷庫の設置、食事席の配置替え、カラオケコーナーの改修等)

安心・安全な暮らしの支援 に向けての防火訓練は、法人の防災計画に沿い、各フロアの担当者（利用者から選ぶ）と施設の防火責任者、防災士が中心となり、短時間で安全な避難訓練が行われた後、貯水槽から取り出した水を利用しての手渡し訓練やペットボトルへの詰め込み作業等、災害時の食事作りまでの工程訓練を無事に終了しました。

まどかでは、ご利用者のストレス解消と安定した生活リズムを支援するため、部屋から出て廊下等で輪になり行うラジオ体操2回/日、朝・夕の散歩、カラオケ、地域の介護予防活動教室や地域行事、生き生きサロン、オレンジカフェ等を周知、参加を促し、利用者が孤立せず部屋から出て、人との交流が深まり気の合う仲間ができるよう側面から支援しております。

### ② まどかケアサービスセンター【訪問介護（介護予防含）】

安心した環境で、その人らしく笑顔がでる自立した生活に向けてのサービスの提供に務めました。その一環として、職員は、お一人おひとりの生活を尊重しながら、ご本人の意見や要望を常に傾聴し、身体介護だけでなくご利用者の出来る事、したいこと（外出、散歩、買い物等）に目を向けた生活支援を行いました。

また、施設（まどか）のラジオ体操、防火訓練にもヘルパーと一緒に参加することで、利用者とのコミュニケーションが深まり、職員へ気遣いの言葉かけ、ご自身の身の上ばなしや自慢話を聞かせてくれる場を見かけることが多くなってきております。

認知症状がある利用者が増えてきている中、衣類の調整が出来づらい状況の方には、衣類調整や水分・塩分の補給、室内での温度・湿度に注意すると共に冷蔵庫内の清掃（賞味期限の確認含む）等に気を配ることで、熱中症や食中毒、感染症等の予防に役立つと自負しております。

今後も、職員間で業務の効率化を図り、時間のゆとりを持つことで、ご利用者、家族等と相談・協力しあえる環境を作りだしていくと共に、地域とのつながりを積極的に活用し、ご利用者が地域行事や活動にも参加できるよう応援していきたいと思っております。

### ③ わくわくキッズクラブ

社会の急激な変化、社会情勢の不安定化、家庭・地域の教育力の低下にともない、子ども達の成長に大きく影響を及ぼす様々な体験の機会が失われ、ゲームやSNS等に夢中になる子ども達が多くなっています。そのような中、わくわくキッズクラブでは、遊びやイベント等を通して人と関わりながら様々な体験をすることで社会性が育まれることを願い取り組んできました。

4月は、お花見給食を実施しましたが残念ながら雨のため、室内で大きな花瓶に挿した桜を囲んでお弁当を食べました。おやつタイムには、わくわくチャイルドの子どもたちも合流し、ゲームで楽しみました。

7月の七夕では、一人ひとりの願いが詰まった短冊を笹に付け、自分の将来の夢や希望について語り合う場にもなりました。

8月の地区社協主催の夏祭りでは、法被姿で勇ましく子ども神輿を担いだりポップダンスの練習の成果を堂々と発表し、観客の皆様から盛大な拍手を頂きました。出店の「かき氷」と「綿菓子」では、自分で作るコーナーを設けたことで、子ども達は自分で作って食べる楽しさを味わうこともできました。

11月には、初めてハロウィンおやつパーティーを行いました。子ども達が作った飾りを部屋の壁に掲示し、その前で写真を撮ったり、支援員からハロウィンの由来等を聞いたりした後、ハロウィン風のおやつを楽しく食べながら異文化に触れることができました。

12月のクリスマス会では、サンタの帽子やトナカイのカチューシャを身に着け、まだか入所者の方にクリスマスの歌を披露した後、サンタに扮した職員と共に少し恥ずかしそうにしながらプレゼントを手渡し、温かい雰囲気の中での会となりました。

子ども達は、わくわくキッズクラブでの活動をととても楽しみにしており、すべての活動に積極的に参加し思い切り楽しんでいるようです。

今後も、それぞれの活動において、子ども達が自主的に取り組むことを大切にし、人との関りがもてる機会を増やすことで、社会性が少しでも身につくように取り組んで参りたいと考えています。

### ④ わくわくチャイルド

令和6年度は月2～6名の従業員枠と市外を含めた地域枠、一時預かり保育児童を受入れました。7/11(木)香川県認可外保育施設、10/2(水)児童育成協会の立入調査が実施され、適正な運営がなされているとの通知を頂いております。

#### 1. 生活面

・乳児は、寝返りやお座り、つかまり立ちへの移行など身体機能の発達を促すよう声かけや手足の運動遊び、様々な感情の揺れ動きには、表情豊かなふれあいや眼差し、感覚による応答的な関わりを中心に行い、安心できる空間づくりに努めました。

・1.2歳児は、お絵描きやシール貼り、スタンプ押し等の製作活動を通して指先を使った遊び、また、散歩や戸外活動を通して健康に過ごせる体力づくりや、動植物へ接する機会を多く設けました。「これなに！」と嫌厭する子、指先でつつく子、自分で捕まえる子も手の中で動くときゃーっ等と言って笑い、興味関心が広がったように思います。室内では、音が出る絵本やままごと遊び、お人形ごっこ等で玩具の貸し借りを経験し、「いいよ」や「どうぞ」と譲る心が芽生え「ありがとう」と感謝の気持ち

ちを伝えることができる等、互いを認め合うことを覚えながら園生活が楽しめるよう見守りました。

## 2. 食事面

姿勢よく座り、のみ込みや十分な咀嚼を声かけながら、食材の硬さや大きさを調整して進めました。お花見給食やサンドイッチ、ミートソースパスタ、素麺汁、お好み焼き、果物等は特にお気に入りですが、肉や魚料理も食べやすく調理されていて、家庭では嫌がる野菜やサラダ等も食べ慣れるうちに、ほぼ残食なく完食となりました。

## 3. 感染症対策

県内においてりんご病、悪化すると肺炎となるような風邪症状等が流行し、施設内では、生活スペースや玩具の消毒を徹底して行い、手洗い、鼻水等の払拭を丁寧に行い、常に清潔を保ち、体調管理や健康維持に努め、保育従事者とともに皆、元気に過ごしました。

今後、様々な体験の中で子どもたちの姿を振り返りながら、評価、反省、改善を繰り返し、一人ひとりが基本的な生活習慣を身につけ、豊かな体験を通じて、自ら感じたり、気づいたり、分かったり、できるようになったりすることを保育活動全体によって育めるよう取り組んでまいります。

### ⑤ まどか介護予防サロン

月2回程度行われている介護予防サロンは、今年度は冬場にインフルエンザが流行した時期にお休みにしましたが、開催したサロンでは、子供達との交流は控え、マスク着用で換気や座席に気遣いながら、在宅で行えるストレッチ体操を主として行い、在宅でのコロナ感染予防の注意を促す研修も組み入れてのサロン活動を行いました。

### ⑥ 特別養護老人ホーム明日香（ショート・介護予防を含む）

令和6年度の利用率は82%となり、目標の85%達成に3%届きませんでした。

入退所者数は、入所者13名（男性5名、女性8名）、退所者は13名（男性5名、女性8名）となり、退所理由は施設内での死亡1名、協力医療機関への入院8名、他医療機関入院1名、他施設3名（千手苑女性2名・ケアハウスまどか男性1名）となりました。

面会については、インフルエンザ流行時期はやむを得ずオンライン面会になりましたが、流行が治まるころには以前通り事前予約で1階喫茶ルームにて対面の面会を再開しました。遠方のご家族の面会も少しずつ増え、「元気にしよったんか？」と泣きながら再会を喜ぶ姿が見受けられました。

行事ごとは、夏には竜川地区社協主催のふれあい夏祭りに参加し、キッズのダンスやお神輿を見て、子供たちに大きな拍手を送っていました。秋には春日神社の獅子舞をコロナ渦以降、久しぶりに間近で見ることができました。迫力のある獅子が一回転する舞いに入所者様も大興奮。感極まって大泣きする方もおられました。

食事面では、旬の食材を使って趣向を凝らした献立に力を入れ、食事前には食前体操を職員と一緒にし、誤嚥防止に努めました。また、食事を口から食べる大切さを共有し、食べることの楽しさを味わっていただけるよう取り組みました。

インドネシア技能実習生は、日本語検定N4保有者が昨年12月に次のステップN3の検定を受け、見事に合格しました。二人とも次のN2の試験に向けて日々勉強しています。介護面では、2月下旬より夜勤の業務が始まり、早く慣れるよう頑張っていますが、今までと大きく生活リズムが変わるため睡眠時間など調整しながら夜勤に入っているようです。

#### **⑦ 生計困難者に対する相談支援事業**

香川県社会福祉協議会と社会福祉法人施設とが連携した生計困難者に対する相談支援事業「香川おもいやりネットワーク事業」へ参画し、関係機関との連携を十分に行いながら必要な制度、サービスに繋いでいきます。また、既存の公的制度につながるまでの間、必要に応じて現物給付による生活支援が行えるような環境に向けて取り組みました。

#### **⑧ 明日香ウェルネスクラブ**

ウェルネスクラブは、高齢者が介護を受けない身体作りを目指して頂けるよう、中高齢者（40歳以上）を対象に温泉水等を利用した水治療のリハビリ等で、健康増進・介護予防に努めております。

また、地区社協の委託事業である高齢者へのお弁当提供や、医療法人功寿会から無償貸与しております竜川オレンジカフェは、感染予防対策を行いながら通常通り営業し、認知症を持つ家族の相談の場、認知症当事者の社会参加や就労支援の場として継続することができ、ご本人はもちろん、入居者と家族の人達の出会える場として喜ばれました。